

活動の趣旨

「視力トレーニングクラブ」を地域に作ってあげませんか。

近年、子どもたちの視力低下が社会問題となっています。携帯型ゲームやスマホ、塾通いなど、子どもたちの目に負担のかかる要因が増えています。

「仮性近視」のうちにトレーニングを受けると早期回復が望めます。

そのためには対策として、

今、地域で指導してくださる視力トレーナー(指導員)の方がが必要です。

●放課後、小学校の指導はボランティアで。

●カルチャースクール、公民館、集会所等の指導は有償ボランティアで。

※見てあげることが大事です。

貴女の地域で子どもたちを指導してくださる方を募集しています！

当協会は無料で養成しますので、シニアの皆さんのお力を貸してください！！

全国子供視力回復訓練協会

◇子ども視力の内容

ふえている子供の近視、深刻です

視力回復の対策として

小学校の放課後に「視力トレーニングクラブ」を作ってあげませんか。

「近視児童人口」を減少させるために、私達は子どもさんの視力回復トレーニングに携わり33年になりますが、県内外を問わず視力トレーニングを受けられる場所が少なく、子供近視専門の当協会に、良くしたい子どもたちが通っています。しかし、遠距離から見えている子どもたちもおり、交通費や時間など、子どもだけでなく保護者の皆さんにも過大な負担を強いています。そこで、無料トレーニングが受けられるように安全な学校に開設。

子どもにとって、視力が低下するということは単にものが見えないということに留まらず、目つきや表情、姿勢が悪くなることで、生活態度を誤解されたり、集中力の低下や学力低下をはじめ、意欲が低下することで明るさを失い、そうしたことが原因で時にはいじめの対象となることもあります。

お母さん方は小学生の時にメガネを掛けると、いじめの対象となり中学生まで引きずるので、子どものうちはメガネを掛けさせたくない、また、活発に運動ができないなど。

子どもたちの視力低下の大部分は、仮性近視が原因であることが多く、早い時期であれば正しい目の使い方に関するトレーニングをおこなうことによって、回復することが多いのです。(視力が良くなったら、お母さんに教えて家庭で管理して貰っています。)

活動を通じて感じることは、視力が回復していく過程で、子どもたちの表情が少しずつ明るくなり、元気になっていきます。そして、「見える」ということが集中力につながり自信を蘇らせ、意欲が表出することにより、勉強やスポーツに積極的に取り組むようになります。このように、「見える」ということは、子どもたちが本来持っている力を顕在化させ可能性を拡大させるのです。

私達は、このような視力トレーニング法を、子どもを持つお母さんたちに学んでいただき身近な地域で、視力トレーニングが継続して受けられるような場を広げていきたいと考えており、ボランティアトレーナーの方(母親、PTA等)の育成をおこないながら、その人たちが、放課後の空き教室、公民館、集会所等を活用した「視力トレーニングクラブ」活動を自主的に運営して欲しいと考えています。

※全国各地の小学校に「視力トレーニングクラブ」を開設して、視力低下で悩む子どもたちをサポートしてあげませんか。

※このような画期的な活動を、未来の日本を担う子どもたちのために、皆様のご協力をお願いいたします。

視力回復トレーナー（指導員）ボランティア募集

近視だからとあきらめないで！



早い発見
早い訓練
早い回復

遠近性の近視は全体の5%にすぎないと言われており、大半は環境によって後天的に作られたものです。

視力はトレーニングで回復します

●当協会は視力回復に携わって33年になります。近年、子供達の生活習慣の変化に伴い視力低下が大きな社会問題になっています。現在、小学生の視力は3人に1人が1.0未満、この様な事から「近視児童人口」を減少させる為には、当協会回復率97%、独自のトレーニング法をマスターして貰い、皆さん正常視力(1.0)に回復しています。貴女もトレーナー（指導員）として、地域の子供さんの視力回復に携わってみませんか。

どんどん増えている子供の近視、深刻です！

●コンタクトレンズやメガネを掛ける前に「小学生の仮性近視」の段階で視力トレーニングを受ける習慣が一番大事です。視力を向上させるにはマンツーマントレーニンング指導が必要です。これを一般化させて、急増する一方の多くの子供さんの視力を良くしてあげませんか。視力が回復しますと集中力がついて運動、学業成績が向上したなど皆さんに喜ばれています。

子供専門の視力トレーニング所

●今、視力トレーニングする場所が必要です。学校の放課後、視力トレーニングが無料で出来るように、全国各地の小学校に「視力トレーニングクラブ」を作って、独自の視力トレーニング法を後世に残してあげたい。それには小学校の放課後、空き教室などを活用して週1回2時間程度「視力トレーニングクラブ」を開設して、視力回復を指導して下さる女性トレーナー（指導員）の方を募集しています。地域の課題に取り組んで頂ける（誠実で教える事が好きな明るい方）30歳～60歳代の方。当協会は短期間（3回程度）無料で養成します。どなたでも指導出来るように工夫しました。

※「近視児童人口」を減少させる為に、貴女の地域で視力低下に悩む子供さんのために、ボランティアのご協力で子供たちをサポートしてあげませんか。

■お問い合わせは

全国子供視力回復訓練協会
福島県福島市大町1-13 福島103ビル3F
受付時間 PM 1時～PM 7時 休日（日曜、祝日）
電話 024-522-6411

<http://www4.ocn.ne.jp/~siryoku/>

視力回復
トレーナー養成

ストップザ近視

あなたの地域社会に貢献

視力回復トレーナー募集

スマホ、携帯で視力低下

児童・生徒 養護教諭の9割超回答

学校現場で児童・生徒と接している養護教諭の九割以上が、子どもたちの裸眼視力の低下が進んでいると感じ、最大の原因はスマートフォンや携帯電話だと考

今年五・七月、小・中高の養護教諭計七百四十一人から回答を得た。児童・生徒の視力低下が進んでいると答えた人は全体の92%。学校の種別では高校90%、中学93%、小学校97%で、低年齢校になるほど視力低下を強く感じていた。

その原因について複数回答方式で尋ねると、最も多かったのはスマホ・携帯で91%。次いで携帯型ゲーム80%、パソコン69%、テレビ32%の順で、勉強・読書は16%と最も少なかった。ただし、小学校に限ると最多は携帯型ゲームの88%で、スマホ・携帯は70%で二番目だった。

視力を補うためのコンタクトレンズについては、88%が装用の低年齢化が進んでいると実感。

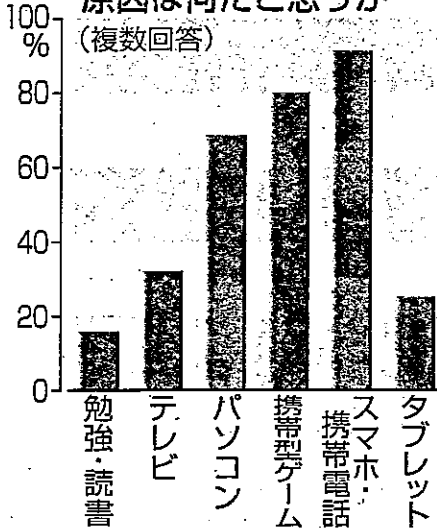
若い女性を中心におしゃれ目的で人気を集め、一部で眼障害が問題化しているカラーコンタクトレンズに

関しては72%が「眼科の検査を受けずにカラコンを購入・装着している児童・生徒が増えている」と回答し、特に高校では90%に達した。

日本眼科医会の宇津見義一理事は「コンタクトレンズの装着開始年齢は低くなっており、初めてのコンタクトレンズがカラコンという子どもも少なくない。美容目的のカラコンは学校現場には不要であり、大人でも眼障害が増加している中、自己責任の取れない子どもたちには勧められない」と警鐘を鳴らしている。

児童・生徒の視力低下の原因は何だと思おうか

(複数回答)



答え方ではスマホ・携帯で91%。次いで携帯型ゲーム80%、パソコン69%、テレビ32%の順で、勉強・読書は16%と最も少なかった。ただし、小学校に限ると最多は携帯型ゲームの88%で、スマホ・携帯は70%で二番目だった。

視力を補うためのコンタクトレンズについては、88%が装用の低年齢化が進んでいると実感。

歯科ローナー

口腔乾燥症とシェーグレン症候群

乾燥症の原因

法が主体

ことほ少ない疾患ですが、生活に支障を来すことが多く、膠原病(こげんびん)病を合併していることがあります。

現段階では根治する治療方法は確立されておらず対症療法が主となります。

本症候群の主な症状は、目の乾燥の症状には口腔保湿用ジェルや人口唾液の使用、内服薬剤の服用等があります。そのほか、口腔の症状には、唾液の減少に対する処置が主体となります。唾液減少によるむし歯や歯周病の予防にはフッ素洗口剤やキシリトール製品の使用、口腔乾燥の症状には口腔保湿用ジェルや人口唾液の使用、内服薬剤の服用等があります。そのほか、口腔の症状には、唾液の減少に対する処置が主体となります。

摂食障害治療に一步を

回復への道筋を示す本出版

拒食症や過食症などの摂食障害は、ちょっとした心理的要因で誰もが患う可能性がある病気だ。若い女性を中心に増加傾向にあり、国内の患者数は二万人を超える」と推定されている。

そんな患者たちが受診への一步を踏み出せるよう、DVDの映像とテキストで治療の具体的イメージを示す「摂食障害治療の三章で構成。それぞれ十・二十代の女性患者をモデルに、発症のメカニズムや症状、初診では何をやるのか、検査や診断、治療の進め方、患者本人が病気とどう向き合っ

摂食障害：見る読むクリニック

「摂食障害：見る読むクリニック」

この本があなたに役立つ理由

著者は政策研究大学院大学教授で内科医の鈴木真理子、白梅学園大学教授で精神科医の西園マリア文さん、東京女子医大付属女性生体健康センターの臨床心理士、小原千郷さんの三人。

本書は拒食症「過食症」「心理的治療」の三章で構成。それぞれ十・二十代の女性患者をモデルに、発症のメカニズムや症状、初診では何をやるのか、検査や診断、治療の進め方、患者本人が病気とどう向き合っ

ネット依存は怖い病気です

ネット依存を自認する、ある大学生との会話で違和感を感じる人があります。センター試験の会場で、

ネット依存を自認する、ある大学生との会話で違和感を感じる人があります。センター試験の会場で、